

〔太平記三十七〕新將軍京落事

爰ニ佐渡判官入道道譽都ヲ落ケル時、我宿所ヘハ定テサモトアル大將ヲ入替ンズラントテ、尋常ニ取シタ、メテ、略中眠藏ニハ沈ノ枕ニ鈍子ノ宿直物ヲ取副テ置ク、

〔夫木和歌抄三十二〕枕ほうの木まくら

よみ人不知

みちのくのくりこまやまのほうのきの枕はあれど君が手まくら

〔後奈良院御撰何曾〕三輪のやまもりくる月はかげもなし

すぎまくら

〔七十一番歌合中〕四十三番 右 枕賣

秋寒き閨の戸口の杉まくらさしいるからに月ぞ身にしむ

〔雍州府志七〕藤枕 以細小片木五寸許縦横四角造枕形是謂指枕而後縦纏藤蔓兩端貼板塗黑

漆是謂藤枕良賤嫁娶夜必用之故新婦携一雙而行是又婚禮之一端也或謂殿枕倭俗崇男子稱殿

故爾造之者唯一家在室町南草枕疊枕狹形枕黑漆塗枕等在烏丸下立賣通北

〔毛吹草三〕日向 藤籠履枕トウノコリトサニテ

〔半陶藁二〕高枕表號說代桃源師

世傳吾中臣氏大織冠嘗有野獸以鎌置枕上藤蔓纏之因改稱藤原可謂異矣公族姓藤原而號齊藤余今以枕命焉豈偶然乎昔有藤枕其製佳也交友之間以充瓊瑤之贈一時名曰睡藤其枕之者鈞天之想不斷遊仙之夢可尋吁孰不念哉夫本邦四家雖競豪華爲士於朝野者問其姓不曰藤也鮮矣有以哉世之所用爲枕者不藤其製也亦鮮矣亦復有以哉藤云藤云睡藤云乎哉

〔儀式三〕踐祚大嘗祭儀中

御服二具衾三條繒枕二枚略中預令縫殿寮縫備

〔東大寺獻物帳〕納物